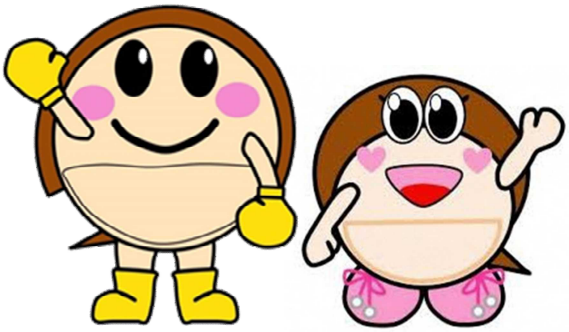
R03.09 版（Ver. 1）

～ 小中一貫教育に関するQ&A集 ～



笠岡市教育委員会

目　　次

「小中一貫教育って？」編

Ｑ１　今，なぜ小中一貫教育が必要なのですか。 …… １

Ｑ２　国は，小中一貫教育を進める方針なのですか。 …… １

Ｑ３　小中一貫教育のメリットは何ですか。 …… ２

Ｑ４　小中一貫教育の課題（デメリット）は何ですか。 …… ２

Ｑ５　小中連携教育と小中一貫教育は，どこが違うのですか。 …… ３

Ｑ６　笠岡市は，小中一貫教育でどんな子供を育てるのですか。 …… ３

Ｑ７　小中一貫教育は，具体的にどんなことをするのですか。 …… ３

Ｑ８　小中一貫教育を行う学校には，いくつかのタイプがあると聞いていますが。 …… ４

Ｑ９　小学校と中学校の校舎が離れている施設分離型では，小中一貫した教育が難しいのではないですか。 …… ４

Ｑ10　学年段階の指導区分を「４－３－２」にするのは，なぜですか。 …… ５

Ｑ11　小中一貫教育の導入で学習の内容は変わるのですか。 …… ５

Ｑ12　子供たちの学校生活はどう変わるのですか。 …… ５

Ｑ13　小中一貫教育を行っていない学校に転校した場合，困ることはないですか。 …… ６

Ｑ14　これまでの地域文化や歴史を生かした学習活動はどうなるのですか。… ６

Ｑ15　小中一貫教育とコミュニティ・スクールを一体的に導入したのは，なぜですか。 …… ６

Ｑ16　小中一貫教育と保幼小連携との関係はどう考えるのですか。 …… ７

Ｑ17　小中一貫教育の導入により，学校規模の適正化（統廃合）が進むのですか。 …… ７

「施設一体型小中一貫教育校について」編

Q18　施設一体型のメリットは何ですか。 …… 8

Q19　中学校入学を機に，新しい環境で心機一転したいと思っている子もいるのではないでしょうか。 …… 9

Q20　施設一体型の小中一貫教育校の先生の数はどうなるのですか。また，校長先生や教頭先生はそれぞれ一人になるのですか。 …… 9

Q21　同じ施設で生活すると，中学校で起こるようなトラブルが小学校でも見られるようになるのではないでしょうか。 …… 9

Q22　小学校の卒業式と中学校の入学式はなくなるのですか。また，修学旅行はどうなりますか。 …… 10

Q23　小学校は１単位時間４５分，中学校は５０分ですが，授業時間の違いによるチャイムはどうなるのですか。 …… 10

Q24　運動会などの行事はどうなるのですか。 …… 10

Q25　施設一体型となり，同じ施設で小学生と中学生が一緒に生活する場合，体格差が大きく危険はないのですか。 …… 10

Q26　既存の小学校を統廃合して，新しく施設一体型の小中一貫教育校となる場合，通学はどうなりますか。 …… 11

Q27　学校名，校歌，制服，名札，校則などはどうなるのですか。 …… 11

Q28　ＰＴＡはどうなるのですか。 …… 12

Q29　放課後児童クラブ（学童保育）はどうなるのですか。 …… 12

Q30　統合後の跡地利用はどうなるのですか。 …… 12

Q31　施設一体型小中一貫教育校の対象となる中学校ブロックは，どのようにして選定したのですか。 …… 12

「小中一貫教育」って？

R3・4年度　試行期間
R5年度　　完全実施

No. 1

Q１　今，なぜ小中一貫教育が必要なのですか？

A１　小中一貫教育が求められる背景として，主に次のことが挙げられます。

〇近年の教育内容に対応した学力向上の必要性
- 小学校高学年への外国語の導入　・プログラミング学習　・ICT の活用
- 思考力・判断力・表現力を育成するための学習活動の充実　など

〇発達の早期化への対応の必要性
- 身体の早熟化，思春期の早期化
- 小学校高学年からの急な自己肯定感※1の低下

〇小学校高学年からの不登校・長期欠席の増加への対応の必要性

〇いわゆる「中１ギャップ※2」（学校間段差）への対応の必要性
- 授業形態，指導方法，評価方法の違い　・生徒指導の手法の違い

こうした状況の中，笠岡市は，これまでの連携教育で小学校と中学校においての情報共有と連携で進めてきましたが，体制や教育課程※3の編成などで限界があります。そこで，義務教育９年間の学びの連続性を踏まえ，子供の発達段階に即した指導ができる小中一貫教育の導入が必要と考えています。

Q２　国は小中一貫教育を進める方針なのですか？

A２　平成 26 年の教育再生実行会議や中央教育審議会において，「日本における急激な少子高齢化の進展，グローバル化に伴う国際競争の激化や人・もの・情報の国境を越えた流通の進展など，厳しい時代を生きる子供たちは，自らの手で自らの人生を切り拓くとともに，多様な価値観を受容し，共生することが求められる。」などとして，教育制度の改善を目指した提言がなされました。その中で，小中一貫教育について，それまでの取組の成果や必要性などから制度化が提言されました。それを受けて，平成 28 年４月施行の改正学校教育法により，小中一貫教育が「義務教育学校」，「小中一貫型小学校・中学校」という新しい学校制度として位置づけられ，義務教育９年間の系統性のある教育制度として進められることになりました。

笠岡市は，保幼小中連携教育を進めてきましたが，小中一貫教育が制度化され，新しい学習指導要領※4が実施となるこの機会に，これまでの先進事例の成果を参考として，学力の向上や不登校などの課題解決と教育活動のさらなる充実に向け，連携から前進させて小中一貫教育に取り組むこととしたものです。

※１　自らを積極的に評価できる感情，自らの価値や存在意義を肯定できる感情など，自尊感情などと類似概念。
※２　小学生から中学１年生に進級した際に被る，心理や勉強，文化的な差異とそれによるショックで生じる問題のこと。
※３　学校におけるすべての教育活動。
※４　文部科学省が示す初等教育及び中等教育における教育課程（教育活動）の基準。

「小中一貫教育」って？

R3・4年度　試行期間
R5年度　　完全実施

No. 2

Q３　小中一貫教育のメリットは何ですか？

A３　小中一貫教育を行ってきた自治体では，次のような成果が報告されています。

・児童生徒の学習意欲が向上してきた。
・いじめや不登校，暴力行為が減少した。
・児童生徒の規範意識が高まった。
・指導内容の系統性について教職員の理解が深まった。
・小学校・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった。
・小学校・中学校の教職員間で協力して指導に当たる意識が高まった。

Q４　小中一貫教育の課題（デメリット）は何ですか？

A４　小中一貫教育を行ってきた自治体では，次のような課題が報告されています。

・小学校高学年のリーダー性・主体性の育成
・教職員の負担感・多忙感
・施設分離型における合同授業や交流活動の効率化　など

こうした課題への対応策は長年にわたって蓄積されています。次のような工夫で課題の解消を図りたいと考えています。

小学校高学年でのリーダー性・主体性の育成については，今までどおり小学校高学年でリーダーシップを発揮する場面を多く設定していきます。笠岡市では指導の区分を「４－３－２」※5で捉えますが，学校生活は，「６－３」の区切りで行います。施設一体型小中一貫教育校では，小中合同行事の実施により，中学生のリーダーシップを小学校高学年が学んでいくことも，さらに期待できると考えています。

教職員の負担感・多忙感については，市の予算で教職員を増員したり，ICT の活用で会議や研修の時間確保を行ったりして，負担軽減に向けて取り組んでいきます。

施設分離型における小中学校間・小学校間の合同授業や交流活動については，公用車などの利用に加え，ＩＣＴを活用してリモートによる授業や交流を行うなど，効率的に進めていきます。

※５　Q10 を参照

「小中一貫教育」って？

R３･4年度　試行期間
R５年度　　完全実施

No.３

Ｑ５　小中連携教育と小中一貫教育は，どこが違うのですか？

Ａ５　小中連携教育とは，小学校と中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて小学校から中学校への円滑な接続を目指す教育をいいます。

他方，小中一貫教育とは，小中連携教育のうち，小学校と中学校が目指す子供像を共有し，９年間を通じた教育課程を編成し，系統的な教育を目指す教育をいいます。

Ｑ６　笠岡市は，小中一貫教育でどんな子供を育てるのですか？

Ａ６　「学び」と「育ち」をつないで，自立して共に生きる子供を育てます。

基礎・基本を確実に身に付け，いかに社会が変化しようと，自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，他者と共に力を合わせて問題解決をしていこうとする力を育てていきます。

Ｑ７　小中一貫教育は，具体的にどんなことをするのですか？

Ａ７　小・中学校で「目指す子供像」を共有し，義務教育９年間を一貫した教育方針で子供たちを育てます。

９年間を貫く教育計画「小中一貫教育カリキュラム」により，各教科・地域学（笠岡市や各地域の特色に応じた教育内容）の系統的・継続的な指導を行っていきます。

小学校高学年からは，一部の教科で専門の先生が教えたり（一部教科担任制）、中学校の先生が小学校で教えたりして（乗り入れ授業），児童の状況に応じた質の高い授業実践を行うとともに，中学校へのスムーズな接続を目指します。

特別支援教育※6においても，小学校と中学校の連携を密にし，９年間の連続性のある指導・支援を行っていきます。

また，同じ中学校区の小学校間や小学校と中学校間の交流活動を充実させ，思いやりの心やコミュニケーション能力などの社会性を育てていきます。

令和３年度から中学校ブロックに学校運営協議会※7を設置しています。中学３年生の義務教育の出口をイメージし，学校・家庭・地域が連携して９年間を見通した教育を行っていくことをねらいとしています。

※６　障害のある子供の自立や社会参加への主体的な取組を支援するための指導及び支援を行う教育。
※７　学校運営に保護者や地域の人が参画し，学校と協働して子供たちの豊かな成長を支える仕組み。

「小中一貫教育」って？

R3・4年度　試行期間
R5年度　　完全実施

No. 4

Ｑ８　小中一貫教育を行う学校には，いくつかのタイプがあると聞いていますが。

Ａ８　小中一貫教育を行う学校には，主に２つの形態があります。義務教育学校と併設型小学校・中学校です。

①義務教育学校

・一人の校長の下で一つの教職員集団が一貫した教育課程を編成・実施する９年制の学校で教育を行う形態

②併設型小学校・中学校

・それぞれの学校に校長がいる組織上独立した小学校・中学校が，一貫した教育を行う形態

また，小中一貫教育を行う学校の施設形態は主に３つあります。

ア　施設一体型：小学校と中学校の校舎の全部又は一部が一体的に設置

イ　施設隣接型：小学校と中学校の校舎が同一敷地又は，隣接する敷地に別々に設置

ウ　施設分離型：小学校と中学校の校舎が隣接していない異なる敷地に別々に分離して設置

笠岡市では，小学校と中学校を中学校区のブロックに区分し，併設型小学校・中学校の施設分離型で小中一貫教育を行います。併設型小学校・中学校の中でも，より効果的と言われる施設一体型については，金浦中学校ブロック，神島外中学校ブロック，新吉中学校ブロックを候補として，令和８～１０年を目途に整備を進めていきたいと考えています。

Ｑ９　小学校と中学校の校舎が離れている施設分離型では，小中一貫した教育が難しいのではないですか？

Ａ９　小・中学校の先生が授業の進め方などを一緒に研究したり，乗り入れ授業を行ったり，小学生同士や小中学生が交流する機会を増やしたりと，各中学校ブロックで工夫しながら様々な取組を行っていきます。

「小中一貫教育」って？

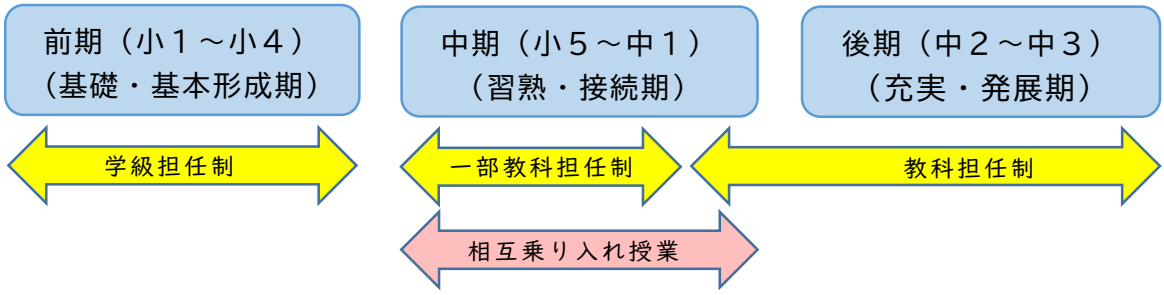
R３･4年度　試行期間
R５年度　　完全実施

No. 5

Ｑ１０　学年段階の指導区分を「４－３－２」にするのはなぜですか？

Ａ１０　子供たちの発育の早期化への対応や，中学校段階への移行に際して子供が体験する段差の緩和を図る観点から，子供の発達段階の区分を小学校１～４年生（前期），小学校５年生～中学校１年生（中期），中学校２・３年生（後期）という４－３－２で区分します。

特に，中期の小学校から中学校へ進学する時期に，小学校で一部教科担任制や相互乗り入れ授業を行うことにより，円滑な移行を図っていきたいと考えています。



Ｑ１１　小中一貫教育の導入で学習の内容は変わるのですか？

Ａ１１　基本的に小中一貫教育を開始することによる学習内容の変更はありません。これまでどおり，学習指導要領の内容に基づいた教育活動を行います。

Ｑ１２　子供たちの学校生活はどう変わるのですか？

Ａ１２　施設分離型・施設隣接型の小中一貫教育校においては，学校生活が大きく変わることはありませんが，中学校の先生が小学校で授業をする「乗り入れ授業」の回数が増えたり，逆に小学校の先生が中学校で授業をする場面も見られるようになってきたりします。また，小学校と中学校の交流や同じ中学校ブロック内の小学校同士の交流も増えます。

施設一体型の小中一貫教育校においては，小学校中学校相互の「乗り入れ授業」や，小学生と中学生の合同行事，合同授業が行いやすくなり，施設分離型・施設隣接型よりも回数が増えます。また，施設一体型では，小学校と中学校の授業時間の違いによるチャイムの扱い，小学校エリア，中学校エリアのゾーニング等，今までの学校生活と変わってきます。

「小中一貫教育」って？

R3・4年度　試行期間
R5年度　　完全実施

No. 6

Q13　小中一貫教育を行っていない学校に転校した場合，困ることはないですか？

A13　義務教育学校や小中一貫型の小学校・中学校においては，学年を超えた指導内容の入替をすることができますが，笠岡市は，各学年の学習指導要領の内容（教科書の内容）をベースに指導を行い，指導内容の前倒し等は行いません。したがって，小中一貫教育を行っていない学校に転校しても，困ることはありません。

Q14　これまでの地域文化や歴史を生かした学習活動はどうなるのですか？

A14　これまで行ってきた郷土学習は「地域学」として位置づけ，義務教育９年間を通して系統的・継続的に学習活動を進めていきます。

小中一貫教育校になると，地域範囲が広がることにより，子供たちがそれぞれの地域に根づいた多様な文化や歴史に触れ，地域とのより一層の連携や協働が期待できると考えています。

Q15　小中一貫教育とコミュニティ・スクールを一体的に導入したのはなぜですか？

A15　コミュニティ・スクールとは，学校運営協議会を設置した学校のことです。保護者や地域住民が学校運営に参画していく仕組みです。

小中一貫教育とコミュニティ・スクールを一体的に導入するのは，保護者・地域住民・教職員の３者が，学校・子供が抱える課題やその解決策を９年間を見通して共有し，より広い地域からの組織的・継続的な学校支援体制を整えることが可能となるからです。これは，地域の支援を小学校と中学校の間で断絶させない仕掛けとも言えます。また，小中一貫の最大の課題として教職員への負担が挙げられることも多いですが，コミュニティ・スクールが，保護者や地域住民からの様々な支援を促進する方向で機能すれば，教職員が子供と向き合う時間を確保することにもつながり，小中一貫に付随する課題の緩和や解消にもつながることが期待されます。

「小中一貫教育」って？

R3・4年度　試行期間
R5年度　　完全実施

No. 7

Q16　小中一貫教育と保幼小連携との関係はどう考えるのですか？

A16　子供たちが小学校に入学し，円滑な学校生活をスタートさせることは小中一貫教育のスタートにおいて大変重要であり，その意味で保幼小の連携は大きな意味をもっていると言えます。現在，保幼小連携において取り組んでいる保育所（園）・こども園・幼稚園での「アプローチカリキュラム※8」や小学校における「スタートカリキュラム※9」などの保幼小接続プログラムは，今後においても確実に取り組んでいきます。したがって，保幼小の連携を踏まえた上での小中一貫教育に取り組むこととなります。

Q17　小中一貫教育の導入により，学校規模の適正化（統廃合）が進むのですか？

A17　小中一貫教育は，これまでの先進事例の成果を参考として，笠岡市の教育の課題解決と充実を図るために導入する教育システムです。また，学校規模の適正化（統廃合）は，少子化により学校の小規模化が進んでいる中で，適正な集団や規模を確保して学校機能が十分発揮できるよう，子供たちにとって望ましい教育環境を整備していくことを目的としています。したがいまして，その背景と目的はそれぞれ異なり，小中一貫教育の導入で学校規模の適正化が進むということではありません。ただ，他の市町村においては，それらの教育的観点から小規模化する小学校を統合し，中学校と一体的に教育を進める施設一体型小中一貫教育校を整備しているところもあります。なお，国が法令で示す標準とする学校規模は，１２学級以上１８学級以下となっています。

笠岡市は，陸地部の小規模校の中でも複式学級が発生し，或いは，今後発生が予測される小学校について，小規模のメリットよりデメリットが大きいと考えることから，学校規模適正化計画の中で適正化の対象としています。

そうした中で，小中一貫教育の導入に当たり，適正化対象の小学校について，単なる統廃合ではなく，中学校ブロックでの小中一貫教育の効果をより高められる施設一体型小中一貫教育校として整備していきたいと考えています。

※8　保幼小接続プログラムの一つで，就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習に適応できるよう工夫された５歳児のカリキュラム。

※9　保幼小接続プログラムの一つで，幼児期の育ちや学びを踏まえて，小学校の授業を中心とした学習へうまくつなげるため，小学校入学後に実施されるカリキュラム。

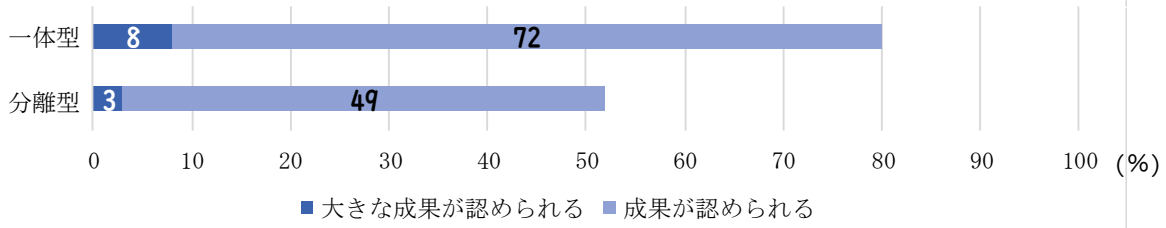
施設一体型小中一貫教育校について

No. 1

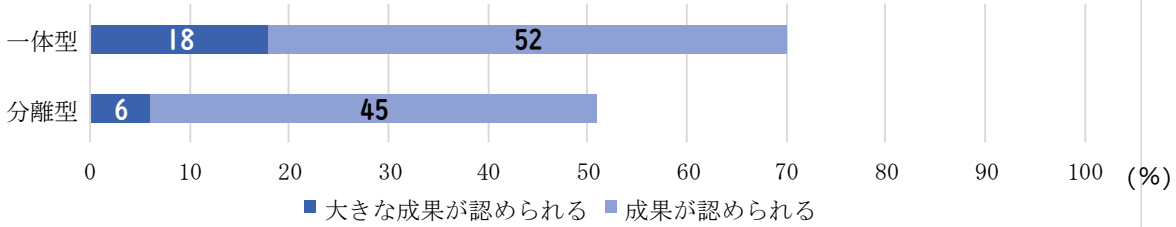
Q18　施設一体型のメリットは何ですか？

A18　小学校と中学校の児童生徒や教職員が一体となった取組が日常的に可能となるので教育効果が高くなります。先行実施校の調査で次の結果が報告されています。

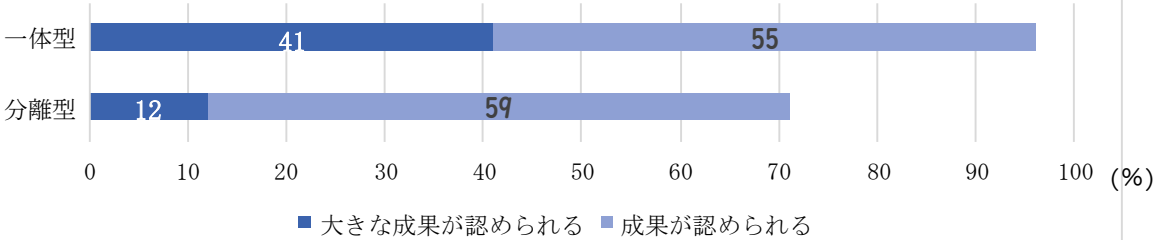
【授業が理解できると答える児童が増えた】



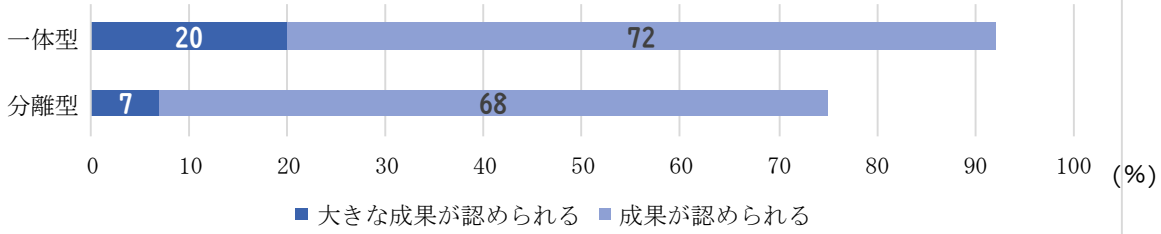
【不登校が減少した】



【上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まった】



【下級生に上級生に対する憧れの気持ちが強まった】



（平成 28 年の小中一貫教育の制度化へ向けての基礎資料を得るための調査より）

施設一体型小中一貫教育校について

No. 2

Q19　中学校入学を機に，新しい環境で心機一転したいと思っている子もいるのではないでしょうか？

A19　笠岡市が進める小中一貫教育は，小学校６年生から中学校１年生にかけての節目を否定するものではなく，子供たちにとって必要な小・中のステップは残しながら，少しでも緩やかなものにしようとするものです。

笠岡市では，施設一体型であっても小学校・中学校は存在するわけですが，中学校進学という大きな節目にあたっては，学校行事を工夫するなど，子供たちが心機一転できるような機会を大切にしたいと考えています。

Q20　施設一体型の小中一貫教育校の先生の数はどうなるのですか？また，校長先生や教頭先生はそれぞれ一人になるのですか？

A20　笠岡市が取り組む施設一体型は，小学校と中学校が同じ敷地内にあるという併設型小中一貫教育校ですので，教職員の配置については，施設分離型の小学校・中学校と同様に，それぞれの学級数に応じて教職員数が決まります。そして，小学校と中学校のそれぞれに校長と教頭が配置されます。なお，１人の校長が兼務することも可能です。

また，一つの職員室になることで，小・中学校の教職員が一緒に会議をするなど，情報交換や連携をより深めることも可能になります。

Q21　同じ施設で生活すると，中学校で起こるようなトラブルが小学校でも見られるようになるのではないでしょうか？

A21　施設一体型では，中学生のよくない影響を心配される声をお聞きしますが，小中一貫教育を実施している全国の小中学校の調査では，逆の結果が出ています。中学生は，小学生の前でよいところを見せようとする意識が高く，また，小学生は，中学生に対する憧れの気持ちを抱くという，よい相乗効果が生まれています。

施設一体型小中一貫教育校について

No. 3

Q22　小学校の卒業式と中学校の入学式は，なくなるのですか？
また，修学旅行はどうなりますか？

A22　併設型小中一貫教育校を考えていますので，小学校，中学校それぞれに入学式，卒業式を実施します。また，修学旅行も小学校と中学校の両方で行います。

Q23　小学校は１単位時間４５分，中学校は５０分ですが，授業時間の違いによるチャイムはどうなるのですか？

A23　他市町の小中一貫教育校においては，ノーチャイムや休み時間をずらすなどの工夫で対応しています。

一例としては，全てのチャイムを揃えることは不可能なため，１校時・３校時の始業時と給食時，午後の始業時など一部のチャイムを揃えているところが多いようです。こうした先行事例を参考に，校長が適切に判断し対応します。

Q24　運動会などの行事はどうなるのですか？

A24　運動会などの行事は，合同で実施することができます。準備から練習，当日の運営まで，それぞれの役割を分担し，協力しながら小学生と中学生が一緒になって活動する場面が見られます。

そのほか，始業式や入学式，音楽祭，避難訓練など様々な行事を合同で行うことが考えられます。

Q25　施設一体型となり，同じ施設で小学生と中学生が一緒に生活する場合，体格差が大きく危険はないのですか？

A25　小学生と中学生の体格の差については，学年段階の区切りに対応した校舎や運動スペースのゾーニングなどに十分配慮する必要があると考えています。また，逆に，交流スペースなどの共用部分の活用で，中学生が小学校低学年に配慮する姿が見られるようになることなども期待できます。

施設一体型小中一貫教育校について

No. 4

Q26　既存の小学校を統廃合して，新しく施設一体型の小中一貫教育校となる場合，通学はどうなりますか？

A26　通学距離について，小学校は概ね４Km 以内，中学校は概ね６Km 以内と規定されています。（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令）なお，笠岡市の小学校おいて，遠くから徒歩通学する児童の距離は，おおむね 2.5 ㎞～３㎞という状況にあります。こうしたことも踏まえ，学校の統廃合に伴い通学距離が遠くなり，基準を超えて負担を強いることになる児童に対応するためスクールバスを導入しています。したがって，統合となる全ての児童がスクールバスを利用するというものでもありません。通学距離が変わらない，または，近くなるという児童も考えられるからです。

スクールバスの運用については，既存の運用状況を参考にしつつ，運行ルートや停留箇所，運行時間，利用児童の範囲など，保護者と学校を交え協議して具体的ルール作りを行うことになります。

Q27　学校名，校歌，制服，名札，校則などはどうなるのですか？

A27　笠岡市が導入する小中一貫教育校の施設一体型は，併設型小中一貫教育校ですので，小学校と中学校が存在します。ただし，小学校は統合して新しい小学校になりますので，統合後の新しい名称「笠岡市立〇〇小学校」となり，中学校は現在の名称が正式名称となります。施設分離型では，現在の名称が正式名称です。ただし，施設一体型・施設分離型のどちらも小中一貫教育校の愛称を付けるようになります。中学校ブロックごとに，「△△学園」などの愛称を，保護者や地域住民も交えて考えていきます。

施設一体型の校歌は，小学校は統合後の新しい校歌になります。中学校は，現在の校歌です。

制服や名札，体操服などは，施設一体型の学校開設準備期間に，保護者や教職員などで協議して決めていくようになります。

校則については，施設一体型も施設分離型も，中学校ブロックの実態に応じて系統的に定め，指導していきます。

施設一体型小中一貫教育校について

No. 5

Q28　PTA はどうなるのですか？

A28　施設一体型や施設隣接型では，ＰＴＡ組織を一体化していくことが考えられます。小学校１年生から中学校３年生までの保護者が様々な行事や活動に関わることにより，子供同士の異学年交流のみならず，保護者同士の交流の活性化も見込めます。例えば，上級学年の保護者から先々のことを聞くことにより，９年間の見通しをもって家庭教育を充実させるという効果も期待できます。また，小・中双方に子供が在籍する保護者も一定数いることや，少子化の中で会員数の減少が課題となっている団体など，ＰＴＡ活動の一体化は保護者負担の軽減につながる側面もあります。

Q29　放課後児童クラブ（学童保育）はどうなるのですか？

A29　統合して新しい小学校になる場合，施設一体型の中に作るか，統合後の跡地を活用するか，他の施設を活用する分散型も含めて，保護者の皆様の要望や放課後児童クラブの運営組織の考えを聞きながら具体を検討をしていきます。

Q30　統合後の跡地利用はどうなるのですか？

A30　学童保育，民間活用を含めて，保護者，地域の皆様の要望を聞きながら，庁内の公共施設利活用検討委員会で検討していきます。

Q31　施設一体型小中一貫教育校の対象となる中学校ブロックは，どのようにして選定したのですか？

A31　敷地面積，立地，児童生徒数などの状況から総合的に検討しました。
検討の基準としては，次の３つを判断基準としています。

○中学校ブロック内の児童生徒数を考慮し，既存校舎の活用に加え，新設校舎や運動場を整備するための用地が確保できること
○複式学級の解消，または，全学年でクラス替えが可能となること
○学校規模適正化計画において，統廃合の対象となる小学校がある中学校ブロック

発　行　　令和３年９月
　　笠岡市教育委員会
問い合わせ
　　笠岡市教育委員会
　　学校教育課一貫教育推進室
　　電　話　　０８６５（６９）１０６０
　　Ｅメール　gakkoukyouiku@city.kasaoka.lg.jp